平成２９年度第２回宇陀市総合教育会議　議事録

開催日時：平成２９年１２月２１日（木）　午前１０時～午前１１時５３分	
開催場所：宇陀市役所３階　庁議室	
構成員出席者	竹内幹郎宇陀市長 福田裕光教育長 寺澤亮一教育委員　岡本憲明教育委員　巽礼子教育委員　吉川壽一教育委員
説明者	中西教育委員会事務局長 出山総務課長　藤田教育総務課長 太田主幹　小松原教育指導主事　鈴口教育指導主事
協議事項	学校教育の現状と課題への取組みについて
議 事 （ 発 言 内 容 等 ）	
市長	本日は、大変お忙しい中、総合教育会議にご出席いただきましてありがとうございます。 昨日の宇陀市議会の一般質問において、来年４月をもって退任させていただく話をしました。その中で、教育に対しましても耐震化も含めて一定の目処が付き、ほぼ出来上がっております。教育内容につきましても、教育に対する思い、宇陀市の素晴らしい自然環境、自然文化を生かし、進めていきたいと考えています。将来、社会人として活躍するために精神と身体を鍛えることに重点を置き、総合的な実践教育を目指していきたいと考えます。 また、宇陀市の環境を大事にし、宇陀市を愛する心、自信と誇りを持てる宇陀市を目指し、教育のレベルをさらに上げるように努力し、そして、権利だけではなく義務と責任などの教育を行う必要があると考えています。将来、子ども達が宇陀市、そして日本、世界で活躍できるような人間形成を行える教育を目指し、それらの環境整備に向け、最大限の努力をしていきたいと思います。 私自身は市長を退任するわけですが、教育は宇陀市にとって大きな課題ですし、しっかりと継続して取り組むべき事項だと考えております。子ども達の将来のため、忌憚のないご意見を賜りますようよろしくお願いいたします。 それでは、議事を進めさせていただきます。 協議事項（１）「学校教育の現状と課題への取組みについて」、教育長から前回の確認を含めて説明をいただきます。
教育長	前回は、幼稚園の適正配置について、榛原地域の園児数の現状と今後の予想を資料として、幼稚園・こども園等の配置モデル（案）についてご意見をいただき、その次に「宇陀市いじめ防止基本方針について」の原案について意見交換をしていただきました。また、「宇陀市教育大綱にかかる事業実施概況」の原案についても教育大綱の進捗状況を確認把握していくことを報告いたしました。 今回は、宇陀市の教育の現状を報告させていただきまして、その課題に対する分析等について教育総務課から説明させていただきます。
教育総務課長、主幹及び教育指導主事	＜学校教育の現状と課題への取組について説明＞ １　学校教育の指導方針（知・徳・体）の説明 （知：確かな学力の育成） ・学力調査等の結果及びその課題について ・学びの創造ＵＤＡプランについて

	・小学校の英語教育について （徳：豊かな人間性の育成） ・各校の取組（夢先生事業、中学生と乳児の触れ合い体験等）について ・幼少連携、小中連携について （体：健やかな心身の育成） ・運動能力調査の結果及び取組について ・生活面等の子どもの実態について ２　宇陀市いじめ防止基本方針（案）の報告
市長	これより意見交換といたします。
寺澤委員	学力について、例えですが、プールにおいては、１人で泳げる子、もがきながら浮ける子、浮いて前に進める子、全然それらが出来なくて支えてあげないと溺れてしまう子がいるわけで、学力についても、本当に手を差し伸べなければならない子にどれほど手が差し伸べられているのか、そのことが教育委員会事務局、校長先生から見えているのかが気になります。そのような意味では、今説明していただいたものでは解決しないと考えます。その辺の教育課題をどの様に見つけるのか、どの様に自覚するのかが大事だと思います。
市長	貴重な意見をいただきましたけれども、いかがでしょうか。
岡本委員	私も、毎年、学校訪問をさせていただき、授業も拝見させていただています。確かに、学びの創造ＵＤＡプランに沿って、先生方の授業もきっちりされていますが、それでも気になることもあります。例えば、先生が黒板に筆記される、これは昔から一緒で、生徒が説明を聴きながら自分のノートに書き写すということを今も昔もしているわけですが、耳で聞きながら頭で考えて授業を受けている子どももいれば、筆記だけに必死になって、なかなか授業を耳から頭の中に取り入れることができていない子どもも何人かいるように思いました。 また、先生も、筆記だけの時間を取って、ノートに写し終わってからまた説明をするという方もいれば、説明しながら黒板に書き、どんどん進んでいくという方もいて、先生により色々な授業の形があるのだなと分かりました。これによって、理解できる子はどんどん自分の中に吸収していけると思いますが、理解できていない子は筆記のところで必死になってしまって、次の頁に進んでいるときにはもう解らなくなっています。しかしながら、黒板の端には今日はここまではやりますよと書いてあるので、１個聞き逃したことによって、授業内容が解らないまま、授業が終わってしまっているのではないのかなと感じました。その辺は、子ども達を変える前に、まず先生方も自身の授業スタイルを振り返っていただいて、子ども達が本当に自分の授業スタイルで理解してくれているのだろうか、ということを考えていただきたいなと思います。 それと、本日の説明の中で、体力の向上については、ここ２年間で伸びているとありましたけれども、学力の方は当然伸びている部分もありますが、伸びていないという部分もあり、目立って伸びていないということは、何か学力向上に対しての考え方なり、方法について、先生方と子ども達の中で食い違いがあるのではないかと感じています。授業の進め方等は常に課題となっていくと思うので、考えていただければと思います。 家庭学習については、多くの子ども達は、家庭に帰って宿題を終えた時点で、漫画を見よう、ゲームをしようとなって、家庭学習はここで終わりと捉えていると思います。本来、私たちが望む家庭学習とは、宿題に加えて予習・復習を家庭でやってもらうことだと思っています。それが家庭学習だということを子ども達に再度説明して、しっかりと家でも勉

	強をしてもらいたいなと思います。
寺澤委員	宿題のことですが、例えば、この漢字を２０個ずつ書いてきなさいという国語の宿題で、学校の「学」という漢字を筆順を気にせずに真似をしたら、どんな子どもでも出来上がりは漢字になっているわけで、書いてきて偉かったなとなります。これが算数の宿題になると、理解出来ないので宿題をしないという子がいます。この子に対して、先生が、国語の宿題はきちんとしてくるが、算数の宿題はしてこないという評価をするのか、私はこの子が算数を理解できないままに授業を進めてしまっているのかと思うようにしているのか、この違いが気になります。 宿題をマンツーマンに近い状態で点検できれば、子ども達は算数が解けたと嬉しそうな顔をして、少し勢いづいてするようになります。それに、上手に付き合うことが大事な事だと思います。
岡本委員	小学校の時に算数が好きというのは、例えば、足し算、引き算、掛け算が出来た、と割と単純な式の中で答えが出来るから楽しいのだと思います。中学校に入ったら公式というものが出てきて、その入口でうまく理解できなかった子は、ずっと数学が苦手になってしまうと思います。英語でも、「This is a pen.」までは良く解るが、その先は解らないというように。 先生方も時間がないのは分かりますが、その辺の入口を広げてあげて、踏み込みやすい授業を行っていただければ、ますます勉強の好きな子も増えてくるのではないかなと思います。
巽委員	私も、事前に頂いた資料を拝見させていただいき、本日の説明も聴かせていただいた上で、中学校の学力を何とかしたいなと思います。これは、現場の先生方も、なぜ一人一人の力が伸びないのか、労力の割には効果がないと思っていると思います。それは、やはり中学校の小規模化も影響しているのかなと思います。数が質を高めるとは直接的には言えないですが、ある程度の集団の力の中でお互いに刺激を貰いながら、教え合い、学び合うことで個々の力が伸びるということが絶対にあると思います。それは、思春期、少し年齢が上がるほど大きいのではないかなと思います。先生についても、数学を教える先生が学校に１人しかいないのと、３人の先生がいて、３人の先生が知恵を出し合って授業を組み立てているのとでは違ってくると思います。将来、中学生の学力を伸ばす上では、集団の力をどの様に活かすのかという課題が見えてくるのではないかなと思いました。 就学前については、他の市町村に比べたら教育委員会の中で保育所もこども園も含めて全体を見ていただいています。これは他の市町村に比べたら大変良いことで、先を見据えてやっていただけているなと思っています。これらの子ども達の体力や学力は、子ども時代をしっかりと創ってあげて、基礎を積み上げることで良いと思います。就学前や小学校の子ども達は、学力テストの点数にあまりこだわらずに、宇陀市の地域の良さを活かして体験的な学習を積むとか、地域の力を十分に子ども時代に力として蓄えてあげてほしいなと思います。 ただ、平成３０年度から開始する英語教育についてですが、都市部の方でも既に実施している学校が増えてきて、小学校で英語が評価されてくると、就学前から英語を個人的に習わす家庭が増えてきています。特に関東圏ですが、幼稚園等が終わってから、いわゆるアフタースクールという英語だけの学校に行くという話を多数聞きます。個人的には、あれはいかがなものかなと思います。遊ばせなければならない時に英語の塾、英語の学校に行かせているわけで、それが１０年、２０年先に子どもに本当に力が付くのか、英語を喋

	れるようになるかもしれませんが、実際に生きる力に繋がるのかどうか、本当に身体を動かさなくてはならない時に、色々な体験をさせなくてはならない時に、１日部屋の中にいるという状況がどうなのかと思います。それは、小学校に入った時に英語が評価されるということが前提にあるからだと思います。今説明していただいた様な英語を楽しく学ぶ内容、ちょっとした評価、出来るようになったことを褒めてくれる授業であれば大賛成ですが、出来ないことを子ども達に伝えるようでは、親も不安になられて、しっかり勉強させなくてはいけないと、英語をマイナスのイメージで捉えられたらとても損だと思います。 この点だけ、小学校の英語には気をつけていただきたいと思います。英語は、就学前、小学校、中学校と課題を積み上げていけば良いと思います。
吉川委員	全体的な面から捉えまして、また、学校訪問もさせていただいて、１番気になったのが、生徒に与える先生の態度、服装等の印象についてですが、昔だったら、体操のときは体操の服、授業の時は授業の服と、先生の威厳というものがあったと思いますが、最近は友達感覚のような授業の教え方をしているように思います。ある程度、服務的なものも含めて教える授業の態度をすれば、生徒も締まって、先生は先生だなと意識を持ってくれるのではないのかなと思いました。 それから、学力の関係ですが、中学生と小学生と学力調査をして、この様な結果ですよと報告はもらいますが、その結果を捉えて、どの様な対策をした、今後どの様にするというのがなかなか見えてこないように思います。それは、色々なアンケートなり、学校の先生にチェックシートの形で伝えるのはいいのですが、仮に中学生がした学力試験の問題で、出来なかったではなく、その試験問題を全員が理解できているのかなと、試験問題を解いて解かるような理解のチェックが必要ではないでしょうか。特に小学生より中学生では自分で独り立ちしていく立場になっていきますので、より自分自身で理解を上げる様な工夫をするように先生方にお願いしたいと思います。 あと、体力については、段々と良くなってきているということは、それだけの効果のある指導方法がなされているということで、これからもその意識を持って自信を持って指導をしていただけたら良いなと思います。
寺澤委員	学童保育のことですが、学童保育の現状を知っておく必要があるのではないでしょうか。学校の授業から放たれた一定の空間が学童保育です。そこは非常に子ども達の自我が出やすいですし、まさに「裸の子ども」になるわけです。子どもにとって学童保育が楽しいのか、楽しくないのか、それから学童保育の指導員の意識の問題・課題とか、研修、情報の交換・交流が全然ないわけです。良い効果が生まれるような学童保育になっているかどうかを知っておくべきだと思います。
市長	室生の運動会に行ったら、学童保育の先生がいらっしゃいました。
寺澤委員	それはとても良いことですね。
吉川委員	子ども達は、小学校の学童保育では、宿題をしたり、色々な事をしたりして割と楽しんでいます。学童保育は人数が少ないということもあるかもしれませんが、楽しく行っているのが実態かなと思っています。
寺澤委員	学童保育の指導員の資質は、学校も教育委員会も把握していない盲点だと思います。
市長	その実態はどの様になっているのでしょうか。
事務局長	学童保育につきましては、こども未来課が教育委員会と同じフロアにありますので、学校と学童保育という部分が切り離されるということを避けるために何年か前から小学校の中に学童保育室を設けています。

	学校と学童保育の指導員については、問題行動があったり、学校又は学童保育で何かあった場合、絶えず連携を行っています。各学校の校長先生、教頭先生、担任の先生につきましても、学童保育室を覗きに来ていただいていますし、お互いに問題・課題がありましたら、夕方終わってから集まって会議などもしていただいています。今現在、学校と教育委員会とが全くかけ離れているということはないと考えています。
寺澤委員	学童保育にも課題はあると思います。指導員、ボランティアの方々など、色々な人を学童保育に入れていくのも１つの方法だと思います。退職した方、支援員の方など、登下校の見守り隊だけではなく、学童保育へ支援に行こうという様な制度を考えてもいいかもしれないですね。
市長	その様なことは企画しているのでしょうか。
事務局長	来年度に放課後学習支援として、授業についていけない子ども達に対し各学校で行っています。スクールバスの時間とかがあってなかなか出来ないという部分もありますが、来年度につきましては小学校から進めていきたいと思っています。 放課後の学習支援事業としまして、先生のＯＢであったり、教師を目指している学生の支援をいただいて、学校の方で進めていければなということで予算の計上を今回させていただいたところです。
市長	具体的にその様な事を進めようかと思います。市政報告会で、１０年後には中学校を１つ、ないしは２つにしたいと申し上げています。地域ごとに色々問題はありますが、出生数が１４３人なので、その様なことは言っていられないと思います。
寺澤委員	小学校に英語が入ってきますけれども、上手くいくのでしょうか。 学校に退職した高等学校の英語の先生が来てくれていて、５年生・６年生に英語を取り入れてくれています。英語というのは言葉なので、学校の先生が真面目に考えて評価するとかではなく、歌謡曲を歌うように、ジャズを歌うように、自分を解放して、英語遊びというぐらいの気持ちで指導者が溶け込んでいってあげないと、教育、教育としても効果があるのかなと思います。
市長	そういうことですよね。毎日１０分だけ英語の文章を読む習慣を付けていくと伸びていくと思います。
巽委員	去年、一昨年と成人式に行かせていただいて、実行委員の子を中心に、ピアノやバイオリンを演奏する子が出てきたり、会場の人たちも挙手して自分の意見を言ったり、夢を語ったりする場面もあって、すごく良い雰囲気の成人式でした。みんなそれぞれ成長して個性を発揮して頑張っているのだなと感じました。
市長	幼稚園以前に英語教育をしていたら、どうなるのでしょうかね。
巽委員	関東圏の都市部では、アフタースクールと言っていました。幼稚園を月・水・金、英語スクールを火・木・土に行って、毎日幼稚園には行かないような例もあります。
市長	やはり、教育に対する姿勢が違いますよね。新宿では、親が子どもを連れてきて、親が１０分だけそこで読み聞かせをしていました。それは親の姿勢ですし、親の背中を見て子どもは育つのだから気持ちが伝わるのでしょう。それが良いということではありませんが、力強い子どもが育つと思います。学力が上がるということは、勉強が楽しいから上がっていくのでしょうし、授業に対する姿勢を振り向けてあげられたら良いと思います。
寺澤委員	先生方は忙し過ぎますね。子どもに注ぐ目よりも事務や色々な事が以前より増えて可哀想に思います。
巽委員	学校評議員の方が各学校に入っていただき、校長先生と話し合いをして意見を頂いています。それは全部の学校で行っていますが、それを、１歩進んでコミュニティ・スクール

	（学校運営協議会制度）化されていくのでしょうか。
教育長	学校によっても差はありますが、地域の人に学校に入ってもらって、学校園の畑の方に手伝いに来てもらうとか、登下校の見守り隊とか、様々な場面で行っています。国が言っているように学校運営協議会を創っていって、学校側と協議しながら学校組織にどのように関わっていくとか、地域の在り方とかは、まだまだ学校間で差があります。
巽委員	ＰＴＡの組織が既にありますしね。いずれ、学校運営協議会を立ち上げる動きですよね。
教育長	その方向で動いているのですが、なかなか現場が追いついていない状況です。
巽委員	難しいですね。保護者の意見、学校運営協議会に参画してくれる地域の方、学校、教育委員会と色々な人の意見を推奨していく必要があります。
教育長	これから生徒指導で家庭訪問に行かなくてはいけないとか、この子は教育課題があるので家に行ってあげなくてはいけない等、私たちが勤めていたときよりも先生方は間口広く対応しなくてはいけなくなっています。 もう１つ、専門的に子どもを見る力が大事になってきていて、昔はこのように対応してきたけれども、今は、保護者にはこう、Ａの子、Ｂの子にはこうとそれぞれ対応が違うので、ユニバーサルデザイン化で多様な子に対して教員が１人で対応している状況です。もちろん補助に来てくれる先生もいますが、人的支援が国からないというのが現状です。
吉川委員	課題の関係で１番気になったのが規範意識です。特に中学生の、人が困っていてもそれを感じないというところが、宇陀市は昨年より極端に悪くなっています。そういう意識を持った子どもが少なくなった。これから道徳教育も始まりますし、人の痛み・苦しみを分からない、助け合うどころか別に自分さえ良ければ良いという意識を持っているという単なる統計、報告だけで済ましてしまって良いのかなと思います。これは昔からありますが、道徳教育が始まる中で、小さい頃から人には優しく、助け合うという意識の改革を徹底的に教育しない限りは、大変なことになってしまうのではと感じます。それこそ、宇陀市自身も大変なことになると思います。 学問もいいですが、人の心というのは、小さい頃から徹底的に教えていくのが良いと思います。
教育長	全国的に、子どもから先生に対して危害を加える、暴力行為があり、それについては色々な意見が分かれています。社会人というか地域の人が子ども達の教育の手本として動いてもらうという部分も社会教育の中で啓発をしなくてはならないのかなという意味では、この地域では、あいさつ運動、見守り隊など、まちづくり協議会を中心にやっていただいており、色々な部分で協力していただいているので本当にありがたく感じています。
吉川委員	小学校の時はみんな意識が高いが、なぜ、中学校に行くと意識が低くなってくるのでしょうか。
寺澤委員	その辺は、子どもの心の成長、発達で自然なことで、やはり高学年から中学校にかけて、自意識が芽生え、さらに受験や進路のこともあります。人権教育・道徳教育だけでは絶対に解決できない課題だと思います。
市長	意見が出尽くしたので、まとめに入りたいと思います。
教育長	我々が教育外のものについて最も話をしているのは、２０４５年にシンギュラリティがきて、いわゆるＡＩが出来てどんどんロボットが入ってきます。逆に子どもの数は減っていきます。今、学びの本質ということを委員の方からも意見をいただきましたが、本当に学びで楽しい、面白い、こういうことをもっと勉強したいみたいな心が続いていくのが、これからのシンギュラリティの時代には大事な事ではないだろうかと思います。葉っぱを見つけて、葉っぱを集めてこんなことが分かったとか、土を触って、ミミズを触って、自

	然体験をしながら大きくなっていくこと、お母さんの匂いやお父さんの汗臭い匂い、また先生方の思いを肌に感じながら学んでいくことが１番基本にしていく事なのではないかなと思います。一方で、ＩＣＴ機器とかを揃えていかなくてはいけませんが、そういった宇陀らしい教育をそこに求めていくことが大事なことなのではないかなと委員さんのお話の中でも感じました。 　また、去年、調べる学習コンクールを図書館で行いましたが、良い作品を作ってくれており、自分の調べたいことを自分のスタイルで訴えながらまとめていくという力を育てていくことも大事だと感じています。 　また、給食甲子園において学校給食で準優勝を取ったということも、宇陀の地産のメニュー作りのアイディアとか、子ども達へおいしい給食を届けたい、手作りでしてあげようという思いが準優勝に繋がっているのだと思います。 　今後、その様なことを大事にしながら、就学前の遊びの英語、遊びの算数、遊びの砂遊び、遊びの体力づくりということで、遊びをイメージしながら、色々な仕掛けを入れて、就学前から健康、体力を向上させていくということを進めていきたいと思います。 　色々なご意見を賜りたいと思いますので、よろしくお願いします。
市長	そうしましたら、これで意見交換会は終わります。その他、何かございますか。
教育総務課長	今回の総合教育会議は１２月の開催となりましたので、平成２９年を振り返り、また今後のことにつきましても、委員の皆様から話題を特定しないでご発言を頂けましたら、市長と教育委員会の意思疎通が図られ、市の教育課題やあるべき姿を共有することができると考えます。例えば、幼稚園の統合につきまして、現在、意見の徴収を市民にしています。その中で、幼稚園の統合は理解できるけれども、学校は今後どうなるのか、という問いもありますので、宇陀市の今後の教育について自由な意見交換を頂戴できればと思います。
事務局長	今、課長の方から幼稚園の統合について話が出ましたけれども、去る１２月８日の常任委員会、前回９月議会においても幼稚園の適正配置の現状について、やはり子どもの集団の学びの関係で早期に統合をというお話をさせていただきました。その時には小学校との適正配置の関係、また、就学前教育の宇陀市全体での方向性、保護者や地域の意見はどうなのか、統合の時期はいつ頃なのか等、委員の方々から意見を頂きました。その様な中で、１２月議会において、その部分について委員と意見交換会、報告をさせていただいたところです。概ね、榛原西幼稚園の統合については、現在、人数も２１名なので、早期に行うことが良いという意見もいただいています。また、今後、榛原地域の小学校の適正配置、大きくは宇陀市内の中学校の統合も考えていかなければならないという意見もいただいています。そこで、小・中学校の適正配置については、今後を見据えて検討するような委員会を立ち上げて意見を求めながら進めていきたいと意見をさせていただきました。 　それから、榛原地域の幼稚園の統合は、こども園との関連性もありますので、こども園をするときに一緒にすれば良いのではないかという意見も頂いていますが、やはりこども園の建設がまだ見えていないことから、榛原西幼稚園の実情を考えれば、先に榛原幼稚園に段階的に統合したいという思いをお話しさせていただきました。これに対し、統合の時期はいつ頃かという意見も委員の方からも出まして、当初３０年の４月ということを９月議会でお話しをさせて頂きましたが、その間にそれぞれの保護者、地域の方の意見を頂いて、人数的にこのような状況になっているので統合は進めていかなければならないが、段階的に榛原小学校との交流も進めながら実施をしていただきたいというのが皆様の意見でした。また、地域に幼稚園がなくなる寂しさ、心配という旨の意見もありました。 　今現在の考え方としましては、できるだけ早い時期の榛原幼稚園と榛原西幼稚園の統合

	としましては、平成３１年の４月が適切ではないかという答えを委員会でさせて頂いています。まだ審議には至りませんので、保護者の方の意見等を頂きながら統合に向けて進めていきたいと思っています。
市長	通学路に線路を挟むのが問題だと思っています。歩いて行ける導線を造ってあげないといけないと思います。また、榛原北保育園の耐震化、園舎の問題、それと榛原幼稚園の問題があります。これらを統合してこども園にしたいのですが、場所の問題等もあり、今の状態で統合することは、保護者に対して不安を与えてしまいますし、そう様な段階で、次の段階を考えていかなければならない。１０年後から話をして、２０年後に１箇所になるようにしてくれれば良いという話です。その様に将来的なイメージをしながら、小学校、保育所の統合もしていかなければならないと考えます。 今回、菟田野にこども園を新設しますが、各地域に１箇所だけ保育所を造っていって、中学校は１つで良いと思います。小学校はまた議論しなくてはならないでしょうが、集団的な教育という中で競争が発生して、競争することによって子ども達が活発になっていくことを考えると、行政的な背景も含めて合併を考えていかなければならないと思います。
岡本委員	建物の話が出たので、前にも話をしていました学校給食センターの老朽化の件ですが、せっかく全国２位と頑張って、毎年子ども達に安全・安心なおいしい給食を提供して行こうという職員さんの気持ちもあるので、そちらの方も進めていただけたらと思います。「食」というのは健康に直接繋がることですので、あの施設を見て、今のままではいかがなものかと思います。
寺澤委員	関連して、学校給食には業者委託方式を絶対に採らないようにしてほしいです。「食育」、今そのことに取り組んでいます。文部科学省が考えている食育と農林水産省の理念とを比べたら農林水産省のグレードの方が遙かに高いと思います。その様な意味では、文部科学省がまだまだ足らないと考えます。業者委託方式というのは、食育の概念を壊しかねない。
事務局長	学校給食センターの今後については、議員からも一般質問がありました。今後の予定ということで、平成３０年度に給食センターの建替えに伴う基本構想ということで、検討委員会を立ち上げて検討していくつもりです。
市長	学校給食センターも独立したものではなく、まちづくりの一貫として考えていきたいと思います。教育に対しては熱い教育をしていると思います。決めることは目標を持つことで、時間の短縮が重要になってきます。 意見が出尽くしたようですので、次回の総合教育会議の開催時期について、総務課長から説明をお願いします。
総務課長	次回の開催時期は、平成３０年２月ぐらいにさせていただきたいと思いますので、また日程調整をさせていただきます。
市長	ありがとうございました。